

弥生文化博物館 平成4年秋季特別展 10月3日(土) — 11月29日(日)



激動の3世紀

主催 大阪府立弥生文化博物館 毎日新聞社 毎日放送

協賛 OSAKA KOG/N

後援 財団法人大阪文化財センター
財団法人大阪府埋蔵文化財協会

観覧料 午前10時から午後5時(入館は午後4時30分まで) 観覧曜日/毎週水曜日(祝日の場合はその翌日)

人	個人	一般500円	高・大生400円	小・中生200円
票	団体	一般480円	高・大生320円	小・中生180円

(団体は25名以上)

考古学セミナー 14:00から

- | |
|-------------------------------|
| 第1回 10月10日(土・祝) |
| 「弥生時代後期社会と青銅器器」 近藤新一(山口大学教授) |
| 第2回 10月24日(土) |
| 「3世紀の前方後円形の墓」 石野博信(徳島文理大学教授) |
| 第3回 11月7日(土) |
| 「秦漢漢墓と日本」 町田章(奈良国立文化財研究所部長) |
| 第4回 11月28日(土) |
| 「中国の農耕儀礼」 小南一郎(京都大学人文科学研究所教授) |

3世紀の終わりから4世紀の初め頃、前方後円墳が誕生し日本列島は古墳時代を迎えます。弥生時代の墓とくらべると、大きさや副葬品の質・量などその格差に驚きます。

古墳の誕生、それは大きな謎。そして謎を解く鍵は3世紀にあります。3世紀は国際情勢をみても国内情勢をみても、まさしく激動の時代です。東アジア世界は中国漢王朝を中心とする政治秩序が崩れ大きく変わろうとしていました。倭国の女王卑弥呼が魏に使いを出したのも、この情勢と無関係ではありません。国内的には北部九州や畿内という地域を超えて大きなまとまりが生まれ始めた時代、人・物・情報が激しく動いていました。

激動の時代を経て誕生したのが古墳です。今回の特別展では2・3世紀の考古資料をとおして激動の実態に、そして古墳にみる弥生時代からの連続・非連続そして飛躍を東アジア史的に考え、皆様とともに古墳誕生の謎にせまってみたいと思います。

■主な展示品リスト

雨請山遺跡	近畿式銅鐸 1点
クビル遺跡	広形銅矛 3点
平原遺跡	◎方格規矩四神鏡など 3点
芝ヶ原墳墓	◎四獣形鏡・銅釧など 8点
津古生掛古墳	方格規矩鏡など 6点
箸墓古墳	特殊器台形埴輪など 2点
椿井大塚山古墳	画文帯神獸鏡など 2点
安土瓢箪山古墳	腕輪形石製品・筒形銅器など 20点
猫塚古墳	斜縁神獸鏡など 2点
大和天神山古墳	内行花文鏡など 4点
大同江面出土	盤龍鏡など 5点


※ ◎は重要文化財



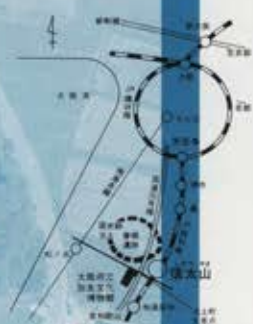
弥生文化博物館 平成4年秋季特別展
—古墳誕生の謎—

激動の3世紀

10月3日(土) — 11月29日(日)

 大阪府立弥生文化博物館

〒594 和泉市池上町443 TEL (0725) 48-2182
J/P阪和線天王寺駅から25分 富木山駅下車徒歩7分
南海本線松ノ浜駅下車徒歩21分



●画文帯神獸鏡(複製) 津古生掛山古墳
京都大学文学部博物館